

記者発表資料

はんせんにっぽんまる

帆船日本丸の国産ディーゼルエンジン

日本マリンエンジニアリング学会の「マリンエンジニアリングの航跡」に認定！

～「造船当時（95 年前）の最先端の国産技術を活用」～

はんせんにっぽんまる

1930（昭和 5）年に建造された国指定重要文化財である帆船日本丸に搭載されたディーゼルエンジンが、この度、日本マリンエンジニアリング学会において、第 3 回「マリンエンジニアリングの航跡～未来へ続く先達の功績～」に認定され、5 月 30 日に表彰式が行われました。

帆船日本丸の建造は、エンジンやその構造など当時の先進の国産技術を積極的に導入して行われましたが、当時は蒸気エンジンが主流の中、国産かつ最新式のディーゼルエンジンの導入は、その後の国産ディーゼルエンジンの発展に大きく寄与しました。

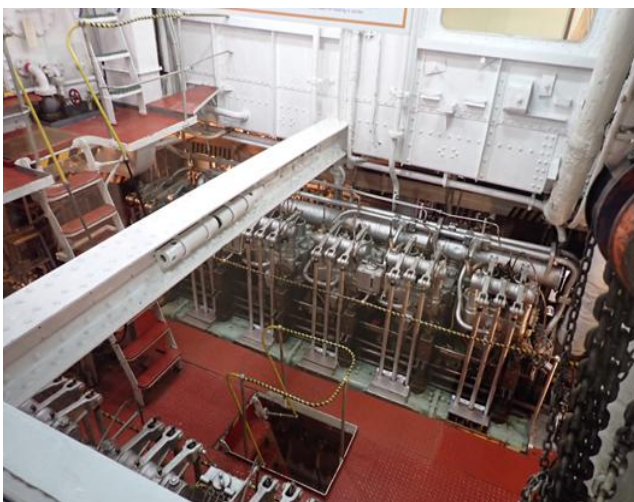
はんせんにっぽんまる
「帆船日本丸のエンジン」が評価されたポイント

はんせんにっぽんまる

帆船日本丸のエンジンは、国内生産技術の先駆けとして、1926（大正 15）年に開発された最先端方式のディーゼルエンジンであり、我が国のその後のディーゼルエンジン技術の発展に大きな影響を与えました。

はんせんにっぽんまる

帆船日本丸の機関室には、この国産初期のディーゼルエンジンが建造時の状態のまま設置され、常時公開されています。



機関室内の様子



認定証を受領しました

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

公益財団法人 帆船日本丸記念財団 営業企画課 和田 TEL：045-221-0280

「マリンエンジニアリングの航跡 ～未来へ続く先達の功績～」認定

「マリンエンジニアリングの航跡 ～未来へ続く先達の功績～」は、船舶にかかわる工業分野のうち、歴史的・技術的・文化的価値の高いものを日本マリンエンジニアリング学会が認定するものです。

帆船日本丸^{はんせんにつぼんまる}は、第 14 号として、2025 年に認定されました。横浜では、他に第 7 号として山下公園の氷川丸^{ひかわまる}のディーゼル機関が 2024 年に認定されています。

帆船日本丸^{はんせんにつぼんまる}

帆船日本丸^{はんせんにつぼんまる}は 1930（昭和 5）年の建造以来、95 年を経過した文部省航海訓練所（当時）の練習帆船です。1984 年まで約 54 年間現役で活躍し、地球を 45.4 周する距離（延べ 183 万 km）を航海し、約 11,500 名の実習生を育ててきました。

1985（昭和 60）年 4 月より、日本丸メモリアルパーク（所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい、管理・運営：公益財団法人 日本丸記念財団）で現役当時のまま保存・公開されています。

帆を広げた時の優美な船影から「太平洋の白鳥」とも称され、その事業は多くのボランティアに支えられています。すべての帆を広げる「総帆展帆^{そうはんてんぱん}」を年間 12 回程度実施するほか、青少年向けに「海洋教室」を実施しています。次の総帆展帆は、6 月 8 日（日）の予定です。

2017（平成 29）年には、国の重要文化財に指定されており、隣接する「横浜みなと博物館」の VR シアター「みなとカプセル」では、帆船日本丸^{はんせんにつぼんまる}の帆を張った姿をご覧いただけます。



帆船日本丸 概要		
名称及び数量		所有者
日本丸 一艘		横浜市
進水年月	昭和 5（1930）年 1 月	
製造所	株式会社川崎造船所建造	
船種	帆船（4 檣 パーク型）	
用途	練習船	
総トン数	2,278.25 トン	
全長	97.05m	
幅	12.95m	
附	一、日誌・諸記録類 約180点 一、図面類 約400点	

現在の帆船日本丸（総帆展帆・満船飾時）と日本丸メモリアルパーク

＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞

公益財団法人 帆船日本丸記念財団 営業企画課 和田 TEL：045-221-0280